

中国南西部、ASEAN への窓口 広西壮族自治区南寧市

岡山県上海事務所 池田 稔

(日中経済貿易センター上海事務所 所長)

このたび、ある業界視察団に同行し広西壮族自治区南寧市を訪問しました。日本人にはなじみの少ない街でしょうが、亜熱帯気候に属し緑豊かで美しく、ビジネスチャンスにもあふれる街ですので御紹介いたします。

南寧市の概要

中国の南、広西壮族自治区の区都南寧市は中国の華南経済圏、西南経済圏と東南アジア諸国連合(ASEAN)経済圏の交わる位置にあります。

人口は約 692 万人で、少数民族である壮(チワン)族が半数を占めます。

第一次産業ではサトウキビ、果物、花卉などの栽培と淡水養殖が盛んです。第二次産業ではアルミ加工、機械設備製造、農産物加工の伝統産業の上にバイオ、IT などのハイテク産業を、第三次産業では商業、旅行、IT、会議展示会、物流を発展させています。

ASEAN の玄関口

広西壮族自治区は、中国西南部では唯一、海に開かれていることから、西南経済圏の物流拠点になっているだけでなく、ベトナムと国境を接することから、ASEAN の玄関口ともなっており、その中心地の南寧市は中国—ASEAN の物流、貿易、生産の基地としての地位を築いてきました。2010 年 1 月 1 日に中国と ASEAN 各国との FTA(自由貿易協定)が実現したことにより、相互に多くの商品のゼロ関税が実現しますが、南寧市には、中国—ASEAN の人口 19 億

の自由貿易区という巨大市場の中心的役割も期待されています。

そのため、南寧市では 2004 年から「中国—ASEAN 博覧会」が開催され、一般貿易、サービス、投資、文化交流が進められてきましたが、市では更なる交流拡大のため、「中国—ASEAN 博覧会」の常設展示場として「中国—ASEAN 国際ビジネスエリア」を開発しています。ここには ASEAN10 カ国と日本、韓国の国別エリアが設定され、それぞれの国の特徴を持った建築でオフィス、住宅、レジャー施設、商業施設を建設しています。ここに来ればそれぞれのエリアで各国の商品やサービスを買うことができるようになるのです。

「日本園」とビジネスチャンス

「中国—ASEAN 国際ビジネスエリア」の「日本園」は 2010 年 10 月にオープン予定です。園内には日本風の住宅、マンション、オフィスビルと、日本製品とサービスを提供する店舗ゾーンがあり、将来、中国西南部の企業や ASEAN の企業にとって商流、物流の拠点となります。日本企業はそこで日本商品、日本ブランド、日本のサービスを販売提供することができます。商品販売希望者は「made in Japan」の商品を日本国内において「日本園」関連の会社に国内販売し現地で委託販売することも、現地に独自で出店し販売活動を展開することも可能です。また、「made in China」であれば中国市場だけでなく、FTA を利用して ASEAN 市場も狙えます。

中国市場に参入する際には上海、北京、広州が

その候補地となる場合が多いですが、少し視点を変えて、南寧市や西南経済圏、そしてASEANなども検討されてはいかがでしょうか？

(2010年7月)



建設が進む日本園